

開催日	指定校	研究主題	参加者数
10月14日	二川南小学校 (特別支援教育)	子どもの心に寄り添い、ともに学び合う学校づくり ～個を見つめ、育ちを支える連携を通して～	661名 (幼保18名・高2名 特支7名)
10月28日	石巻小学校 (郷土学習)	郷土を愛し、思いを深める子どもの育成 - 地域の「ひと・もの・こと」を生かした協同的な 学びを通して -	367名 (幼保4名・高2名 特支1名・大学1名)
11月11日	羽田中学校 (人間教育)	社会を生きぬく太い根っこをもつ子どもを育てる学校づくり - 子どもの自分づくりを支える三つの力の育成を通して -	519名 (高4名・特支2名)

1 研究発表会参加者数等について

2 研究の成果と課題について

【二川南小学校】

○関係施設、園、保護者等よりその子の情報を集めて「つかみ」、情報、支援方法を「つなぐ」ことで校内支援体制を整え、授業構想、支援方法の中に「いかす」取り組みは、どの子ども安心して学校生活を送ることができることにつながる校内システム作りであることが伝わり、参観者へのよい刺激となった。

○「学級のふたなんデザイン」「本時のふたなんデザイン」により、「この子」への支援を行うことが、「全ての児童」への支援となり、失敗が許される雰囲気の中で、助け合う授業が行われていた。ポイントを絞ったり、個をよくとらえて意図的に指名したりすることで、かかわり合いのある授業となっていた。

授業ごとの部会⇒学年ごとの部会:前半は、小グループに分かれ、手立ての有効性が活発に話し合われた。

後半は、校内支援体制について話し合われ、体制を構築するための具体的な方策が話題となった。

【石巻小学校】

○教師自身が足を運んで地域について調べ上げた地域資源概念図をもとに、地域とのつながりを深めて協力を得ながら、共通体験をさせることで体験の差を埋め、郷土を愛する心を育てていた。外国人児童を含めた子どもの本気の発言から、校区の実情を知り、問題点を理解し、解決しようという経緯がよく分かった。

○総合的な学習と各教科・領域との関連性を示した石巻プランにより、横の広がりや縦の系統が意識された教育活動が展開されていた。

授業ごと(学年ごと)の部会:グループ協議では、①授業のよかった点、②自校の取り組みに生かせる所、

③自校の取り組みについて意見交流がなされ、研究テーマについて議論を深めることができた。

【羽田中学校】

○未来における自分のなりたい姿をめざす「自分づくり」を学校が支える研究であった。そのために、校訓、教育目標によって意思の統一を図り、生徒指導の三つの機能を基盤に「見つめる力」「かかわる力」「うごく力」を育てていた。研究テーマが大きかったが、それに関わる実に多くの実践がなされていた。

○生徒一人一人が体験をもとに自分の考えをしっかりと、意欲的に発言していた。息の長い発言も多く、学校全体の雰囲気がよかった。生徒の書きものやデータから、研究の成果を感じることができた。

授業ごとの部会⇒テーマごとの部会:全体発表では研究のアウトラインのみが紹介されていたので、分科会ではその具体部分をプレゼンテーションし、質疑応答、助言という流れで進められた。取り組みの実際を理解することができ、参加者からは、具体的な手立てについて盛んに質問が出ていた。

3 全体を通して

○3校とも、子どもの実態や地域性をもとに研究構想が練られ、研究が進められていた。

○手だての有効性等の成果を検証し、本質に迫る協議にするためには、研究内容や協議の進め方について司会者と綿密な打ち合わせをし、視点を明確にした上で話し合いを進めることが、今後も大切である。